

会議録

会議の名称	平成23年度 第2回西東京市文化芸術振興推進委員会
開催日時	平成23年8月23日（火曜日） 午後3時00分から午後5時00分まで
開催場所	西東京市 保谷庁舎1階 会議室
出席者	委員：赤澤委員長、中平副委員長、朝井委員、仲川委員、鈴木委員、谷関委員、西田委員、古谷委員 事務局：南里文化振興課長、林文化振興課文化振興係長、渡部文化振興課文化振興係主任、春日文化振興課文化振興係主事 支援業者：室井、増原（記録）（パシフィックコンサルタンツ株式会社）
議題	1：第1回西東京市文化芸術振興推進委員会会議録について 2：計画素案における意見交換について 3：過年度実施事業における施策別概要について（説明） 4：その他
会議資料の名称	1. 第1回西東京市文化芸術振興推進委員会会議録 2. 過年度実施事業の施策別概要一覧 3. （仮称）西東京市文化芸術振興計画（素案）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録

会議内容

開会

○委員長：

本委員会に欠席した委員は2名であり、定足数を満たしているので、議事を進めることとする。

議題1 第1回西東京市文化芸術振興推進委員会会議録について

委員長から資料1に基づき説明

委員各位より承認された。

議題2 計画素案における意見交換について

事務局から資料3に基づき説明

議題3 過年度実施事業における施策別概要について（説明）

事務局から資料2に基づき説明

（委員より意見）

（パブリックコメントについて）

- ・パブリックコメントについて、多くの市民が意見を出せるような工夫はあったのか。また、現段階における意見の提出状況を教えて欲しい。
- ・個人でパブリックコメントを出し辛い人も、委員に直接意見を言うことがあると思うので、そういった意見は本委員会でも各委員に出してもらいたい。

（文化ボランティアについて）

- ・推進する取組「4-1-1文化ボランティアの育成」は、どのような内容をイメージしているのか。
- ・メセナ活動で、企業が社会貢献の一環としてボランティアを行うこともある。
- ・市民の中には、ボランティアをしたいが、何ができるのかがわからないという人も多い。こういったボランティアがほしいのかといった情報を発信していけば、人は集まるのではないか。
- ・文化ボランティアを育てるのは難しい。仙台ではこの取組が進んでいる。
- ・ボランティアを育成するためには、核となる事業が市民に受け入れられるものでなければならない。
- ・こもれびホールは、東京ニューシティ管弦楽団とフランチャイズ契約を結んだと聞いている。この連携を活用し、市民にわかりやすくPRしてはどうか。

（企画・運営コーディネーターについて）

- ・推進する取組「4-1-2企画・運営コーディネートの支援」として、専門的なアドバイスを行う「企画・運営コーディネーター」については、もちろん最初は相談にのる専門家が必要だと思うが、後々は市民の中にコーディネーターを育成して、市民が自立して活動を行えるようになるとうい。ただし、実際にイベントのコーディネートができる人

を育成するのは難しいと思う。

(計画のイベントについて)

- ・今まで取り組んできたものはさらなる充実が必要であり、それとあわせて「目指すべき姿」にあるような『発信』のための核となる事業が必要だと思う。
- ・計画の柱として、提言にも挙げたが「西東京文化芸術月間」のようなイベントを設定してはどうか。
- ・過年度実施された市の事業について、知らないものがたくさんあった。「文化芸術月間」としてまとめることで、集中的にPRできれば参加のきっかけになる。
- ・「芸術月間」は市内の人だけでなく、他市・他県からも人を呼べるようなものにしたい。それとあわせて、市民の活動の発表の場も提供する。
- ・西東京市が文化芸術に力を入れていることをPRするためには、「文化芸術月間」では、ある程度名の知れたアーティストなどを呼ぶ必要がある。
- ・過年度の施策を見ると、たくさんの事業が実施されている。新たな取組を始めることもいいが、既に行われている事業を発展させることも考えられる。例えば、学校の活動と地域の活動を連携させれば、世代間の交流にも繋がる。
- ・「行政による事業」では、事業課を超えたコラボレーションについて、計画に盛り込んでどうか。
- ・子どもに関する取組を何か優先的にできないか。
- ・「目指すべき姿」を実現するためには、やはり核となる事業が必要である。どの市でも実施しているような公民館事業を並べる必要があるか疑問である。
- ・市の計画では、市民の文化芸術活動の芽生えを支援することが大切である。大きなイベントなどを実施して終わりではなく、市民の多様なニーズを市としてしっかりサポートしていくべきである。そのためには、目立たない、どこでもやっているようなことにも、もれなく取り組むことが必要である。

(表記について)

- ・「子供」の表記について、西東京市の他の計画でも「ども」をひらがなで表記しているし、国の基本方針でもひらがなを使っている。「障害」についても、やはりひらがな表記が望ましいのではないか。表記について、再度検討してほしい。
- ・「又は」と「または」という表記が混在している。統一してほしい。

(その他)

- ・財源の確保はどのように考えているのか。
- ・今後は、何を優先的に行うか、取組の順番を決める必要がある。また、その取組について市民にPRできればよい。
- ・文化芸術に特化した広報誌を発行できるとよい。

○事務局：

- ・パブリックコメントは、広報やホームページの掲載とともに、こもれびホールや市民会館でも閲覧できる。計画への意見ではないが、関連の問い合わせはあり、関心を持っていただいていると感じた。
- ・「文化ボランティア」は、文化芸術の知識や経験がある市民による指導ボランティアや、広報の配布や展示会場の設営補助などの活動支援ボランティア等、色々考えられる

のではないかと考えているが、今後検討する必要がある。

- ・「企画・運営コーディネートの支援」は、提言では「育成」となっていたが、趣旨を各文化施設で活動者の相談に応じることができる人の配置とし、「文化ボランティア」と合わせて来年度から検討を始めたいと考えている。

- ・財源の確保について、現在実施されている事業は、事業課の予算によるものである。また、昨年財団からあった寄付金を基金として活用することを考えており、現在、関係する課と検討を進めている。

- ・計画の各取組をわかりやすく管理するために、計画では進め方のタイプを設定した。今後の委員会にてその管理方法について提案し、委員のご意見をいただきたいと考えている。

- ・「子供」「障害」の表記については、常用漢字の表記に従っている。庁内における表記の仕方が混在しているのは、再度確認し次回の委員会で報告する。

- ・「また」単独で接続詞として用いる場合はひらがな表記、「又は」のときは漢字を用いているが、再度確認する。

- ・目玉となる事業も必要だとは思いますが、地固めも必要である。既存の取組から生まれるものもある。「文化芸術月間」などの言葉だけが先走りする計画ではなく、地に足のついた計画としていきたい。

○委員長：

最終案に向けて次回以降も議論をしていきたい。

議題4 その他

閉会